

## 第 2 回刈谷市地域福祉計画懇話会 議事録

1 日 時 平成 31 年 2 月 15 日（金） 10：00～11：40

2 場 所 刈谷市役所 1 階 101 会議室 A・B

3 委員（敬称略）

### 【出席者】

団体等名	役職等	氏名	備考
愛知教育大学	准教授	佐野 真紀	会長
刈谷市自治連合会	会長	青木 健治	
刈谷市社会福祉協議会	会長	杉浦 芳一	会長職務代理者
刈谷市ボランティア連絡協議会	会長	塚本 秀子	
刈谷市子ども会連絡協議会	専務理事	山内 利恵子	
子育てネットワーク刈谷「エンゼル」	代表	箕浦 ひろみ	
北部地区社会福祉協議会ハートの会	会計	酒井 喜代子	
南部地区社会福祉協議会	監査	水谷 さわ子	
刈谷市赤十字奉仕団	副委員長	西尾 實千恵	
刈谷市民ボランティア活動センター	センター長	米田 正寛	
刈谷市立刈谷特別支援学校	校長	神谷 建喜	
刈谷市民	公募	榊山 勇	
刈谷市民	公募	竹上 富彦	
刈谷市役所福祉健康部	部長	鈴木 克幸	

### 【欠席者】

団体等名	役職等	氏名	備考
刈谷市民生委員・児童委員連絡協議会	会長	羽谷 周治	
刈谷市いきいきクラブ連合会	副会長	村瀬 巖	
刈谷市身体障害者福祉協会	会長	平野 健司	

### 【事務局】

所属	補職名	氏名
福祉健康部福祉総務課	課長	村口 文希
福祉健康部福祉総務課	課長補佐	山岡 達也
福祉健康部福祉総務課総務係	係長	西村 知余子

福祉健康部福祉総務課総務係	主任主査	前島 康孝
福祉健康部福祉総務課総務係	主事	内藤 佑佳
刈谷市社会福祉協議会総務課	課長	柴田 桂児
刈谷市社会福祉協議会総務課	課長補佐	松浦 章子
刈谷市社会福祉協議会総務課総務係	主事	堀江 里穂

#### 4 議題

(1) 各調査結果等の報告について

ア 地域福祉に関する市民意識調査の結果 資料1、資料2

イ 団体ヒアリング調査の結果 資料3

ウ 住民参加型会議「地域を語り合う座談会」の実施報告 資料4

エ 各調査結果等からみえる課題とまとめ 資料5、資料6

(2) 今後のスケジュールについて 資料7

#### 5 意見・質疑等

【議題1】 各調査結果等の報告について

ア 地域福祉に関する市民意識調査の結果

※資料1、2を事務局説明

イ 団体ヒアリング調査の結果

※資料3を事務局説明

ウ 住民参加型会議「地域を語り合う座談会」の実施報告

※資料4を事務局説明

エ 各調査結果等から見える課題とまとめ

※資料5、6を事務局説明

○会長 ただいまの説明について質問はあるか。

○委員A 資料1について、福祉の理解の促進で「福祉を学んだことがある人の割合」とあるが、数値としては非常に良い数値だと思うが、どの程度を学んだら福祉を学んだということになるか。

○事務局 今回の調査結果から言うと、どのように皆様が考えたかは人によって異なるだろう。現在、学校では福祉教育の機会があるし、一般の方でも福祉に関する経験や講座等で学んでいる方もいる。自分の中で福祉を学んだ、理解したと思われた方の回答数だと思っている。

○委員A 現実と合わないように感じる。

○事務局 質問の回答になるか分からないが、例えば学校で1度学んだというような、一過性のものでいいと思う方もいるかもしれない。それをこれから継続して学ぶ、協力したい、理解しているとつなげていくことが大事かと思う。

○委員A 地域における福祉サービスの充実「刈谷市の福祉水準が高いと感じる割合」が高くなっているということだが、本当にそうなのか。他の市町のレベルを知った時に、本当に刈谷のレベルが高いかどうか。実際に刈谷のレベルが県内、他市町と比べた時に色んな福祉水準だとか、福祉施設、本当にレベルが高いのか。高くないのに、そこそこあるだろうと思っただけの数字でそれに浮かれているなら、先に進まないと感じる。

○事務局 他市と一概に比較することができないと思うが、パッと見た時に非常に高いという認識は持っていない。確かに刈谷市では様々な福祉サービスが充実していると思うので、福祉サービスを受けられる環境という点では進んでいると思われる方がこの5年間で増えているのだと思う。ただ、20%の方だけが福祉サービスが充実している、福祉水準が高いと感じているというところで見ると、あとの80%の方についても、刈谷の福祉は進んでいる、という風に思っただけのように、これからどうしていくかを考えていかないといけない。

○委員A 施策を本当に必要と感じている人と、現役でバリバリ働いている人であまり福祉を気にしない、気になるのは保険料として給料から持っていかれる分の話だといった時には、世代間の評価が必要だとこの数値を見て思った。もう1点、地域での見守りと権利擁護について、地域包括支援センターの認知度が上がっているとか、防災組織の認知度とか。評価する時に関係者は調査対象の一般市民に含まれていないか確認したい。例えば、民生委員・児童委員の認知度の調査対象の一般市民の中に民生委員さん、児童委員さんは入っていないか。

○事務局 入っていない。

○委員A わかった。

○委員A 資料2の7ページ、問9の調査結果について、「北部地区において「家を行き来するつきあい」「立ち話をする程度のつきあい」が他の地区よりも多くなっていますが、「ほとんどつきあいはない」への回答も他の地区よりも多くなっています。」とあるが、この結果をどのように捉えているか。

○事務局 北部地区が他の地区と比較して傾向が違ふと考えると、事務局の感覚、思いで恐縮だ

が、土地の特徴があるのかと思う。北部は中部や南部に比べて人口が少なく、昔から住んでいる方も多い。また、防災の関係で防災訓練を行っている、サロンも行っているという点から考えると、顔を知っているということや、マンションも少ないためではないかと思っている。中部地区は、今回の調査を通じて感じたことであるが、マンションが多いため隣に誰が住んでいるか分からないとか、自治会の加入率が減っているという点で、人とのつながりが少しずつ減ってきている傾向があることから、北部では昔からの向こう3軒両隣の関係が続いているのではないかと思う。一方で、新しく入ってきた方や学生が多いという土地柄から、あまり付き合いがないと感じている人も多いのだと思っている。

○委員A 16ページ、問17について先ほど説明がなかったが、理由はあるか。

○事務局 申し訳ないが、今回、説明をする箇所が非常に多く、説明は省略させてもらった。「気にかかる家庭がありますか」で、「ない」との回答が非常に多いことは、隣近所にどういった方がいらっしゃるかということにあまり関心がないとか、知らないという方が非常に多いという結果であると思う。説明では省いたが、気を付けて見ていかなければならない結果であると思っている。

○委員B 資料や説明を聞いて、団体同士のネットワークづくりが課題としてあがっているが、市役所の庁内の連携はどうなっているか。子育て支援課、長寿課、共存協働のまちづくりということで市民協働課など、それぞれが委員募集をしているが、似ているというか、同じような内容に見える。募集要項を見ると内容が重なっているものもかなりあると感じた。団体同士のネットワークづくりや連携が課題としてあがってきていると説明があったが、市役所の中での連携はどのようにしているか伺いたい。

○事務局 子育て支援課、長寿課、市民協働課が確かに同じようなことを行っていると感じられるかもしれない。今回の地域福祉計画を策定するに当たり、懇話会として市民の方や各団体の代表の方々に出ているが、その前段階で庁内の関係課に出てきてもらって連携を取り合いながら計画策定を行っている。子育て支援課、長寿課などで作る計画も、福祉総務課の職員が出て、自分たちの今行っている施策や、推進している計画等について情報共有して事業を進めている。しかしながら、やはり一般の市民の方には、市の中でも役割分担はあるが、同じようなことをしているのではないかと捉えられるのは、そのとおりにかと思っている。これからも庁内で連携を図り、情報共有をしながら色々なことを進め、今以上にそういった関係性を密にしていく必要があると考えている。

○委員B 重なり合う部分があつて当然だと思う。団体同士の連携を強めていただいて、という話があったので、市役所の中でもぜひとも連携を取ることを市民としてお願いしたい。

○委員A 市の福祉総務課、社会福祉協議会、地区社会福祉協議会、地域包括支援センターは組織としてピラミッド型だと思うし、市民の考えもそうだろう。場合によっては相談先が違ふと言われ、ワンストップで受け入れてくれるのはどこか。社会福祉協議会は何をしてくれるのか、と

いう意見もこの中にあった。年に1回500円集めて、社協だよりとして市民だよりと一緒に配布される。やっていることがよく見えない、市民にとって何のメリットがあるのか、とと思っている人がかなり多いのではないか。さらに、地区社会福祉協議会という形、それぞれ縦長の大きな所だから分割して行う、ということだと思う。同じようなことをさらに行うのか。それは市役所OBの受け皿作りか、と思う人もいるだろう。そうならないためにどう動かれるのか。

○事務局 社会福祉協議会、地区社会福祉協議会など、市の中でもいろいろ組織があるが、それを皆さんに理解してもらおうところから、と感じている。社会福祉協議会が何をやっているか分からないというのは、市民の方に理解がまだ進んでいないということだと思う。そこは民生委員さんにも言えることで、認知度が少し上がったと言いつつも、10.2%である。10人に1人しか知らないという現状である。この活動を皆さんに知ってもらおうという普及啓発活動が大事かと捉えている。

○委員C 私はボランティア活動センターで勤務し、地域の困りごとを何とかして解決できないかと頑張っている。約523の登録団体があり、個人会員の方がみえる。困りごとが見えれば、団体で得意とするところがあるので、困りごとに合う団体や個人会員とつながっていただいて、悩みが解決できたらいいと思っている。今回出していただいたものは非常に細かく書いてあり、センターで活動するに当たって嬉しく感じている。以前言われたことで、刈谷は南北に長く、途中で道路などがあり、北部の方が中部まで来るのは難しい。生活圏のほとんどが刈谷以外へ行かれるという話があった。刈谷のまちのお祭りも私達には関係ない、という発言も聞いたことがある。市の土地が長いがゆえの特色ある問題、困りごとがあるのではないか。アンケート結果は地区ごとに分かるか。見せてもらうことはできるか。また、これを元に活動される団体、市の機関へうまく流していただいて、より目標を達成できるような行動を早めにとっていただけると嬉しい。

○事務局 集計表は地区ごとに分けることは可能だ。時間をいただくことにはなる。

○委員D 社協の知名度の設問がある。北部地区の地区社会福祉協議会のボランティアの一員として活動しているが、5年経過したが、なかなか知名度が上がらないという現状がある。地元の困りごとを実際にその地区で解決できたらいいと思って活動している。私からすると、社会福祉協議会の大元の方より、地区社会福祉協議会に派遣されている職員の方が、関係団体の方を招いて、困りごとについて「じゃあどうしようか」と具体的な話し合いを持ってきており、それは非常に大事だと感じている。そういうことを知ってもらえるよう、私たちが啓発活動をしていかなければならないと思うが、そういうことをしてくれることが大変ありがたい。

○委員E 今回のアンケートのようなことは5年前、10年前にも行っていると思うが、地区社会福祉協議会や民生委員を知らないという課題はいつも出る。この5年間でどのようにしたら周知できるか、アンケートの数値だけ上がればいいということではなく、もっと広めるためにはどのようにすればいいかをもう少し真剣に考えないと5年後同じような結果が出てくることになると思う。確かに北部、南部、中部と立ち上げて今後進んでいくと思うが、もう少し細かなことを市民に知ってもらうことを考えるとよりいいと思う。

○事務局 確かにそのとおりである。私たちも団体や制度について知ってもらうよう、情報をどのように発信し、啓発活動を行うかが一番大事ではないかと考えている。民生委員・児童委員さんの活動内容について、正しい情報が伝わってこそ皆さんに理解してもらい、認知度が上がることにつながるだろう。社会福祉協議会も同じかと思う。次の5年の計画では地域福祉を推進していくために、ご意見をいただいた中から、どういった施策でどうすればいいかを考えるとともに、情報の発信や情報がどのように行き届いているかについての視点を持って、アイデアや目標を定めていかなければならないと強く感じている。

○委員E アンケートなどを見てもここまで知らないのか、というのが正直読み取られた。ぜひ市民に分かりやすく丁寧に説明していただければと思う。

○事務局 25年の調査、今回30年の調査があった。25年だと北部社会福祉協議会が設立されてちょうど1年くらい経った頃で、今は活動が波に乗ってきている状況かと思う。その間に南部地区社会福祉協議会が立ち上がり、南部では地区を巻き込んだ形で地域での活動が始まっている。中部も今後立ち上げる方向であり、地区ごとの活動として根付いていくかと思っている。そういったところでも活動が地区の方に根付いていくよう、我々も努力していきたい。その時には皆様のご協力をいただくことになるかと思うが、よろしくお願ひしたいと思っている。

○委員E 市がどれだけサポートできているか読み取れないので、その方法も気になった。

○委員F 資料2の民生委員・児童委員の認知度で「人も活動も知っている」が3.5ポイント上昇している。平成29年度に民生委員制度が100周年を迎えた。100周年を迎えたにも関わらず認知度が低く、残念だと思っているが、認知度は上昇してきている。民生委員は刈谷市で南部、中部、北部と157名の方が活動されている。高齢者、障害者、子どもといった様々な方の問題に携わっている。市役所の色々な課や地域包括支援センターにも色々な支援をしていただいている。様々な問題、難問を抱えている方がたくさんいらっしゃるの、皆さんのお力を借りて、という形で活動させていただいている。民生委員だけで解決させることはなかなか難しいので、橋渡しということで、一緒に仕事をさせていただいている。私もボランティアに色々入っているが、民生委員もボランティアにたくさん入っているし、地区社会福祉協議会も、北部、南部は立ち上がって、中部はこれからということだが、地区社協においても民生委員はたくさん携わっているし、色々な役目を担っているの、困りごとへの解決に力添えいただき、今後一生懸命活動していきたいので、皆さんも民生委員についてご理解の程よろしくお願ひしたい。

○委員A 1点目、資料3の15ページ、問4について「特にない」という答えの理由は何か。2点目、私も後継者問題について気にしている。NPO 団体も各団体の代表の方が想いを込めて育て上げてきたところが多いと思うが、代表の方々が高齢化し、それでも活動は続けなければならず、誰がやってくれるかということが大きな課題としてあると思う。それを市として、社会福祉協議会としてバックアップしてあげられるような、してもらえそうな相談窓口があるといい。

○事務局 1点目、連携を取りたいか取りたくないかという時に、他の団体が何を行っているかわからない、ということがあるのではないかと。各団体の活動がオープンになっている、周知されているような状態になれば、どんなことで手を貸してもらえるかを知ることができ、連携を取りたい、ということになるだろう。全体的にその周知が進んでいないことが連携を取りたい組織や団体があるかという問に対して「特になし」という回答につながっていると感じる。

○委員A 例えば公的な運営支援をしてもらいたいというところがあるが、公的な支援をしてもらいたい場合は、大量の書類を作成しなければならない。年に5万円、10万円の支援を仮にいただいても、活動がどうだったか、使い道を決められて思うような活動に使えないことがある。支援は欲しいが、後の処理を考えると手間だけかかって何ともならないことがあるので、その辺もうまく考えていただくことが必要ではないか。自分自身が関わっていてそう思っている。

○委員G 質問が2点で、1点目、資料1にある平成20年、25年の回収数の母数を教えて欲しい。2点目、目標値があるが、目標値の根拠は何か。質問はその2点で、意見としてあと3点。委員Aの「福祉を学んだことがある」という設問の調査結果が実態とずれているのではないかとのご意見に対し、自分の解釈としては、区分が若年者ということであるから、15歳から19歳という、刈谷市内の小中学校は福祉実践教室を行っているので、そこで学んでいると考えれば、単純に考えれば100%になる。したがって、78%という数字に対して違和感もたなかった。2点目、考察について、第3次の計画で4つの基本目標、6つの重点的な取組みということで行われてきた。それに対し、今回の調査結果がどのように成果として出ているか。地区社協の問題も先ほど出ていたが、第3次計画とのつながりで考察するともう少しはつきりすると思う。今回の調査の目的は第4次の作成に当たり、ということなので、これまで第3次を行ってみたいので、この目標、重点的な取組みの結果がこういうものにあたるかと考えられるとか、そういうことを書いていただく等、そういう観点で述べていただければいい。3点目、第4次計画の策定に当たり、新たに対応すべき課題が出ている。第1回懇話会の時に、子どものことはどうなっているかということで、子どもの虐待のようなことが言われていたが、そういう新たに対応すべき課題が出てきたということは、第4次の計画に関係してくると思う。また、民生委員、社会福祉協議会の組織、仕組みは整っているが、それに対し、どう参画していくかという「住民の参画」が謳われている。そういう住民への呼びかけがこれから大事であり、それが「協働」ということになっていくと思う。あなたは福祉に対してどう参画していますかとか、そういう住民への呼びかけとか、そういうものがあってもいいと感じた。

○事務局 1点目、調査の平成20年と25年の母数について。平成25年の配布数は今回と同じで、一般の方が2,500、若年者は1,000である。回収率は一般が38.4%の959枚、若年者は31.8%の318枚で、今回の約半分くらいかと思う。平成20年の配布数は一般が2,000、若年者は1,000である。回収率は一般が51.0%の1,020枚、若年者が35.3%の353枚である。2点目、目標値を出した根拠は、はつきりと説明することができないが、時代を経るとともに時代に即した目標値を掲げ、アンケート調査等で成果を計っているものである。

○会長 目標値は徐々に上げているのか。

○事務局 第2次地域福祉計画の際には、平成25年はボランティア活動への参加割合を40%の目標値、社会福祉協議会の認知度を18%の目標値で、今回と変えていない。また、意見の中で、第3次計画とつながりで考察を、という点では、今回の考察でそういった視点が薄かった。そういった視点を踏まえ考えてみようかと思う。次に、住民への呼びかけ、参画については、今回の団体ヒアリングの際、ボランティア団体に対し、団体へ正式に入会することなく、一般の人が1回だけでも活動に参加するような余地があるか、活動内容を知る、自分自身がボランティアを経験する、そういったことを希望される人がいた場合、活動に入れてもらえるかを聞いてみた。回答では、1回でも参加し、自分たちの活動を認識してもらい、これからも参加したいと思ってから入ってもらえばいいので、そういった方も大歓迎だと言われる団体もあった。それは後継者の関係、担い手の問題にもつながると思う。そういうことも踏まえ、周知啓発を、例えばボランティアの関係であれば、ボランティア支援センターや社会福祉協議会のボランティア団体を支援しているところ、地区社会福祉協議会の職員の方とも連携を取りながら、少しずつ裾野を広げることから、皆さんに知ってもらって参画してもらおう機会を作れるようなことを考えていきたい。

○事務局 資料1の成果指標に関して、4つの項目を書かせていただいている。「福祉の理解の促進」、「支えあいしくみづくり」、「地域における福祉サービスの充実」、「地域での見守りと権利擁護の推進」。これがまさに第3次計画の基本目標の4つとなっている。その中で重点的な取組みが6つある。障害のある人への理解の促進、ボランティアの育成支援等があるが、例えば理解の促進が基本目標でクリアできているかどうかについては、数値目標として福祉を学んだことのある人の割合や社会福祉協議会の認知度をあげているが、それぞれ現状値の25年から今回の調査結果では上がってきており、そういう意味でも成果指標として基本目標に対し、少しずつ理想に近づいてきていると判断している。

○委員H 福祉の意識の拡大かと感じている。ボランティアの参加者を増やす、という意味だけではないと思うが、そういう調査をしているということか。資料2の100ページ問25について、前回も同じ質問はあったか。この5年間でどう変わったか、やってきたのはどういうことなのかが見えない。調査をするだけなのか、ボランティア活動をする人が増えて、福祉に関わる人が増えたらいいという話なのか、刈谷市を良くするために改善し、刈谷市が住み良い、段差の少ないまちになるという風に変わりたいと思っているのか教えていただきたい。

○事務局 ボランティアの人数も増えてほしいし、皆さんがどういったことに関心があり、困っているかを伺うことにより、市としてどういう視点で考える必要があるか、ご意見を伺っている。両方についてこれからも考えていき、検討していかなければならないことだと考えている。

○委員H 5年前とどう変わったか、どう反映できたかを形に表していくと分かりやすいと思う。例えば5年前はこういう意見が出て、こう変わったという話を出してもらえると分かりやすく、新鮮だ。

○事務局 今、おっしゃっていただいた視点での考察ができていないので、そういったところも



踏まえて考えたい。

○委員B 資料は地区長や公民館長へ配られるのか。ここに書いている内容は地区長や公民館長へお伝えしてもいいか。資料2の43ページから意見が書いてあるが、気になる部分がある。伝えてもいいか。

○事務局 この会議が終わったらホームページに資料を掲載する予定なので、大丈夫だ。

○委員A 1点目、今回のアンケートのまとめで、誰が主導するのか。今回の意見を踏まえて市として、社会福祉協議会として、刈谷市の福祉をまとめていく部署として、どのようにしていくのか。市として、市民として、こうしてほしいというまとめがない。皆さんに配ったアンケートは機械的に処理されている印象だ。第4次に向けてどうするのか、そのためにどうして欲しいのか、を訴えたい。2点目、子どもと高齢者を中心にしているが、障害者、特に見えない障害者、診断の結果を元に障害者が増えている状況である。そういう人たちへの配慮や外国人への配慮も必要である。例えば東境町は中国の方や、アフリカ系の方を見かける。それ以外にベトナム、ミャンマーの方など。地域の近所づきあいということでは、安城市に日本一有名な町内会長がみえる。あの方が行われた町内で誰が困っているのか、困っている人がどこにいるのかというネットワークを、市、社会福祉協議会、自治会、我々自身もだが、そういうことを行おうという動きはないか。3点目、まちづくりという形で刈谷の中心部にマンションが建っている。それは、住民を分断している。住民を分断しているまちづくりを刈谷市として行いながら、人のつながりと言うのは相反していると感じる。また、ささえあいマップについて、また聞かせていただきたい。

○会長 ご意見ということでよろしいか。

○委員A はい。

○会長 それでは次の議題に移る。

## 【議題2】 今後のスケジュールについて

※資料7を事務局説明

○会長 ただいま説明があったことに対し、ご質問等あるか。

○会長 質問等ないので、以上をもって第2回刈谷市地域福祉計画懇話会を閉会する。